

第3章 障害があるってどういうこと？

だいたいしょうがい

「障害」ってなんだろう？

● 誰でも病気やけがをします。でも、だいたいはすぐに治ってしまいます。

● 例えば、あなたが病気やけがをして、なかなか治らなかつたらどう思いますか？

● 暮らしの中で不便を感じたり、困ったりすることがあることを「障害」があると言います。





● あなたも、わたしも、
障害のある人もない
人もみんな同じ「人」
です。

● 障害のある人もない
人も、「ともに生きる」
ためには、一人ひとり
がお互いの違いを理解
し、お互いを尊重する
ことが大切です。



障害があるってどんなこと？

障害があるってどうい

うことだろう。

前のページのイラスト

のように、地域には障害の

ある人もない人も、ともに

生活しています。

勉強や仕事、運動、通

学・通勤など、みんなと変

わらないところ、違うとこ

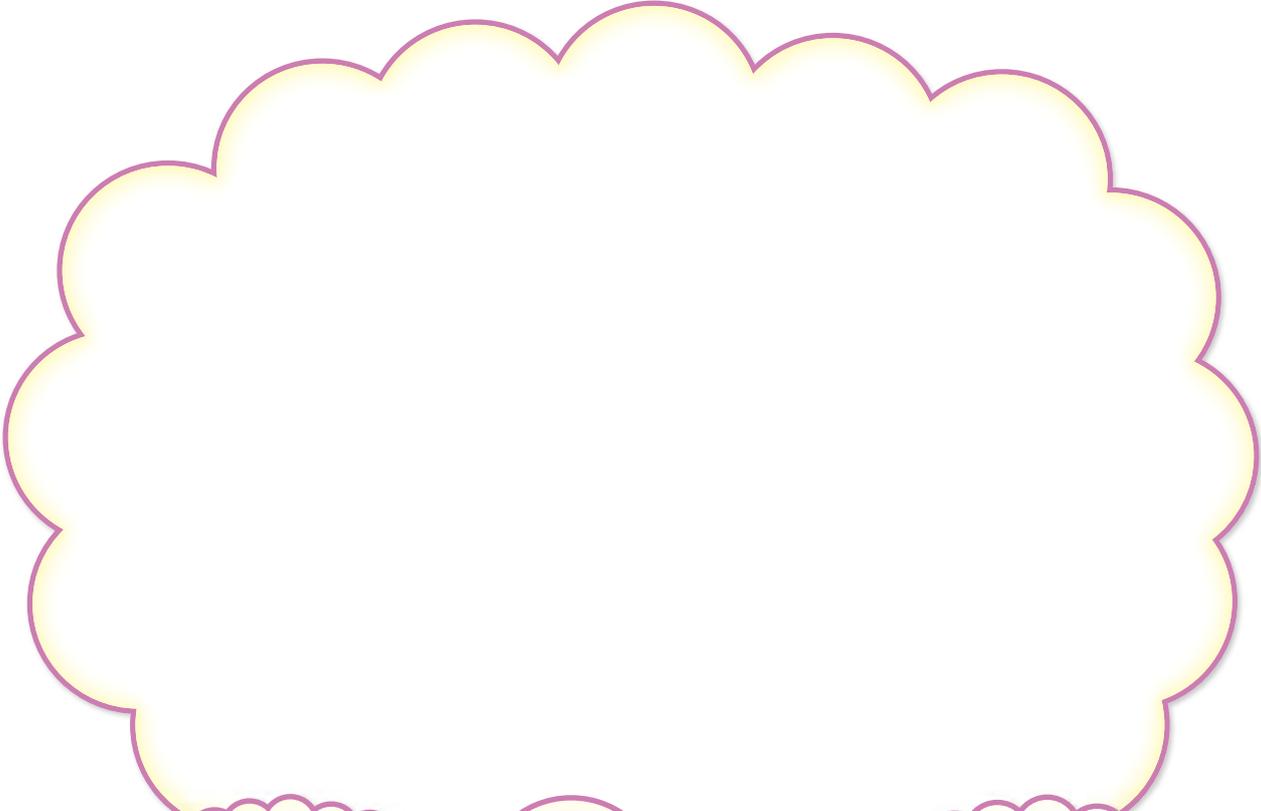
ろはどんなところだろう。

考えたことや知ってみ

たいことを、下のふき出し

に書いて、友だちと話し

合ってみよう。



べんきょう しごと
勉強や仕事は？

つうきん つうがく
通勤や通学は？

にちじょう せいかつ
日常生活は
どうしているのかな？

こま
困っていることは？

うんどう
運動は？



障害の種類にも様々あって、手足が不自由だったり、目や耳が不自由だったり、体の中のはたらきがうまくいかなかったり、気持ちや考えをうまく伝えられなかったり、それらが重なっていることもあります。

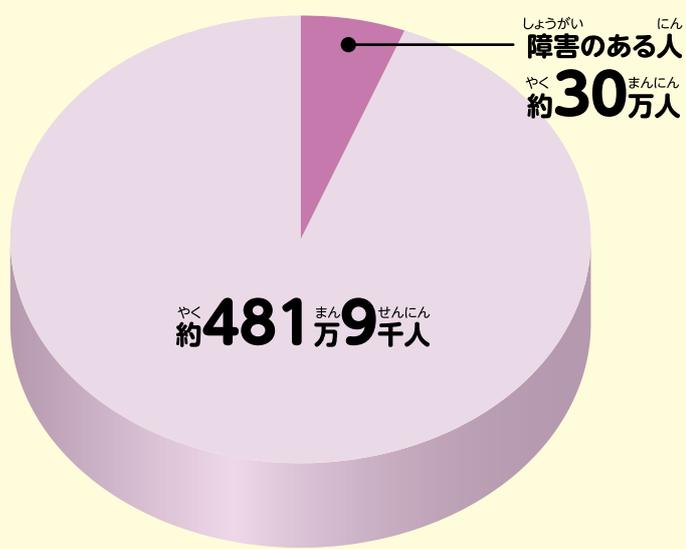
また、生まれつき障害のある人や病気や事故によって障害のある人もいます。

福岡県の状況

福岡県には、障害のある人が約30万人います。また、障害のある人が学習上または生活上に必要な知識・技能を学ぶ場として、特別支援学校が38校と、特別支援学級が2,938学級あります。

(※令和2年5月1日現在)

福岡県の人口(約511万9千人)



福岡県福祉労働部障がい者福祉課資料
(平成29年3月末現在)

福岡県内の特別支援学校及び特別支援学級

特別支援学校 (高等部・幼稚部含む)		
学校数	学級数	生徒数
38校	1,534学級	6,302人

特別支援学級 (小・中学校合わせた数)		
学校数	学級数	生徒数
989校	2,938学級	14,700人

(令和2年5月1日現在)



障害のある友だちの学校生活

特別支援学校(視覚障害)の友だちの学校生活

特別支援学校(視覚障害)は、目が見えない、見えにくい子どもたちが通う学校です。視力だけでなく、視野(見える範囲)や色覚(色を見分ける力)に障害がある場合も、視覚障害といえます。

視覚特別支援学校では、点字の教科書や拡大された教科書を使って、みんなと同じように、国語や算数、理科、社会などを学習しています。

また、一人ひとりの障害に応じた「自立活動」という学習を行っています。

家庭科

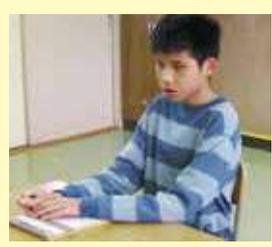


包丁を使って大ききや切る方向を確認しながら野菜を切っています。

図工



本棚を作っています。全体の形をイメージしながら、一つひとつの部品を触って組み立てていきます。



点字盤やタイプライターという道具を使ってノートをとります。

ここで紹介した学習の他にも、体育や道徳、外国語も勉強しています。また、白杖を使って、一人で歩くことや電車やバスの乗り方、買い物など、生活に必要なことも学習しています。

理科



目の中に液体が入らないように、ゴーグルをつけて、水溶液の色の違いを、感光器という道具を使って調べています。

休み時間



先生の声をたよりに、右に曲がったり左に曲がったりしながら、広い運動場を自転車で駆け回ります。

特別支援学校(聴覚障害)の友だちの学校生活

特別支援学校(聴覚障害)は、身の回りの音や言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりするなど、聴覚に障害のある子どもたちが通う学校です。

聴覚特別支援学校では、補聴器や人工内耳で聞こえにくさを補い、音声や手話、指文字を使って、みんなと同じように、国語や算数、理科、社会などの学習をしています。また、一人ひとりの障害に応じた「自立活動」という学習を行っています。

音楽



レコーダーの練習をしている様子です。補聴器や人工内耳を通して、音のちがいを確かめたり、指の動きを覚えたりしながら、楽しく学習しています。

国語



顔や口元、手話が見えるような机の配置になっており、拡大した教科書を黒板にはって、授業を進めています。

自立活動



聞こえの状態を確かめるために、定期的に聞こえの測定をしています。



相手に正しく書いて伝えることはとても大切です。文章を書いたり、言葉を覚えたりするなどの学習を行っています。



廊下の上モニターを設置して、日々の情報や緊急情報を届けられています。

特別支援学校(肢体不自由)の友だちの学校生活

特別支援学校(肢体不自由)は、生まれつき、または、生まれた後の病気や事故などによって、手や足だけではなく、体の様々な部分を動かすことが不自由な子どもたちが通う学校です。補助員を使って自分で歩いたり、車イスを使って移動したりしていません。ベッドに横になって学習することもできます。学習は、みんなと同じように、国語や算数などの他に、体を動かす学習などもしています。



車イスに乗ったままで席に着きます。机は、車イスが入るように工夫されています。

体育



ボール運動をしています。車イスに乗ったままで、ボールを投げたり、とったりします。

通学



車イスのままバスに乗って通学します。

ここで紹介した学習の他にも、理科や音楽など、みんなと同じように勉強しています。他に、自立活動という学習の時間があり、自分の体の動きの勉強をします。また、給食は、小さく刻んだり柔らかくして、食べやすいように工夫されています。



声の出にくい友だちは、音が出る補助員を使って返事をしたりします。



教室の様子です。横になったままで学習できるようにマットを敷いています。

特別支援学級では、取り組みやすい教材を使って、一人ひとりの目標に応じた学習をしています。国語や算数などの教科の学習はもちろん、各教科を合わせた内容を学習する「生活単元学習」や「日常生活の指導」、また、特別活動、総合的な学習の時間などについても、体験を通して学習を進めています。その他にも、集団の中で多くの人と学習することによって、人との適切なかわり方を学んでいます。

生活単元学習



公共交通機関を使う練習です。実際にJRの切符を買って作品展の見学に行きます。



植物を使って、手すきはがきを作っています。



3年生との交流及び共同学習による七夕集会の準備をしている様子です。

国語



地域の学習支援ヘルパーの方と一っしょに毛筆書写をしています。

算数



一人ひとりに合わせた算数のワークシートを使って、考えています。



障害のある人の社会生活

ぎま ゆうじ

義間祐子さん（福岡県で初めての介助犬ユーザー）

義間さんは、手足に障害があり、車いすで生活していません。

ある日、博多駅構内で介助犬（※1）ユーザーの訓練が行われており、その様子を見ていたときに九州補助犬協会（※2）の方から声をかけていただいたことがきっかけで、介助犬を利用するための面接や訓練を受けて、福岡県では初めての介助犬ユーザーになりました。

介助犬ユーザーとなつてから、結婚、出産を経験し、一児の母として子育てにも奮闘しています。



ぎま かいじよけん
義間さんと介助犬ロータス



けっこんしき ようす
結婚式の様子

介助犬はどんなことをしてくれませんか。

主に、落ちたものを拾ってくれたり、物を持ってきてくれたりと、生活の補助をしてくれます。

私が車いすから落ちてしまったときなども、人を呼んでいる間、ロータスが隣にいてくれるので、とても安心できます。

また、結婚式では、ロータスが指輪を運んでくれました。

介助犬を利用して変わったことはありませんか。

落ちたものを拾ってくれたり、いつもそばにいてくれるので、利用する前に比べて、自信をもっているんなことができるようになりました。

ただ、してくれることも増えた分、ロータスのお世話などしなくちゃいけないことも増えました。今は、長男とロータスで二人の息子がいるような感じですよ。

子育てで大変なことはありませんか。

障害がある、ないに関わらず、子育ては大変だと思えます。私もみんなのお母さんと同じように、家事をしたり保育園の送迎に行ったりしますが、私ができないこともあるので、家族やヘルパーの方など、みんなに手伝ってもらって子育てをします。

高1年生の登壇となりなごはできませんが、「私にできないから息子もできない」ということにはしたくないので、そういった場合は、家族やヘルパーの方と登ってもらったりしています。

義間さんからのメッセージ

私は、手伝ってもらうことも多いですが、手足が不自由であるということ以外、みんなと何も変わりません。

「障害があるからしてあげないといけない」という気持ちではなく、障害がある、ないに関わらず、困った人がいた時に自然に手伝える気持ちをもってほしいと思います。

※1 介助犬とは、病気やけがで手足が自由に動かない人の介助をするために、専門的な訓練を受けた犬のことです。

※2 九州補助犬協会は、補助犬(介助犬、聴導犬、盲導犬)の育成や啓発活動などを通して、人と犬が共生できる豊かな社会の実現を目指す団体です。九州では唯一介助犬の育成を行っている団体です。



ぎま おやこ
義間さん親子と
かいじよけん
介助犬ロータス



はかたえき
博多駅での
くんれん ようす
訓練の様子

義間さんの生活をみて、感じたことを話し合ってみましょう。

ひらのともこ

平野智子さん「レストランゆずのき従業員」

ひらの
平野さんは、知的障害があります。小学校3年生
までは、みんなと同じ小学校に通っていましたが、算
数の計算が難しかったり、お話の内容がわからなくな
ったりするなど、学校生活に困ることが出てきた
ため、小学校4年生から特別支援学校に通うようにな
りました。特別支援学校高等部卒業後、クリーニ
ング屋や食品工場などの仕事をを経て、今はレストラ
ンゆずのき※1で、平成17年のオープン当初から働
いています。



ひらの しごと ようす
平野さんの仕事の様子

仕事はどんなことをしていますか。

ちやうりぜんぱん
調理全般を受け持っています。食材を切ったり洗つ
たりすることはもちろんですが、オムライスは「平野
ライス」という自分の名前が入ったメニューとして、
ひとりで任されています。また、デザートも担当を任せ
れるようになりました。
たんとう
担当が増えることで忙しさはありますが、やりが
いを感じています。

仕事で大変だったことはありますか。

さいしょ
最初は、みじん切りが難しく、指を切ったりすること
もありましたが、今では、食材を見なくても切ることが
できるようになりました。
また、以前は人と話することが苦手でしたが、仕事
をする中で、お客さんに挨拶をしたり、従業員同士で話
をしたりすることで、だんだん人前で話をするにも
慣れてきました。



ひらの
平野さんが作った
ひらの
「平野ライス」



家ではどのような生活をしていますか。

今は、兄と二人で暮らしています。仕事がある日は、仕事から帰って夜ご飯をつくったり、掃除をしたりするなど、家のことをしています。

また、近所に猫を飼っている家があり、時間がある時は寄つて、猫と遊んだりその家のお姉さんと話をしたりもします。

休みの日は、友達と天神に出かけたり、カラオケに行ったりしています。

将来の夢はありますか。

今までいろんなところで仕事をしてきましたが、障害のことを理解してもらえず、うまくコミュニケーションがとれないこともありました。レストランゆずのきでは、みんなが障害のことを理解してくれており、自分のペースで仕事ができるので、これからもみんなと支え合いながら、楽しく仕事をしていきたいです。

また、将来は、調理師の資格を取りたいと考えています。そのために、毎日少しずつですが勉強をしています。

※1 レストランゆずのきは、障害のある人もない人も一緒に働いているレストランです。現在、43人の障害のある人が働いています。(平成26年5月現在)

ひらの
平野さんの生活をみて、感じたことを
話し合ってみましょう。



通勤中のできごと

福岡高等視覚特別支援学校

教諭

永吉和之

私は、生まれつきの全盲です。

小学6年のときから電車やバスを使って一人で通学していました。

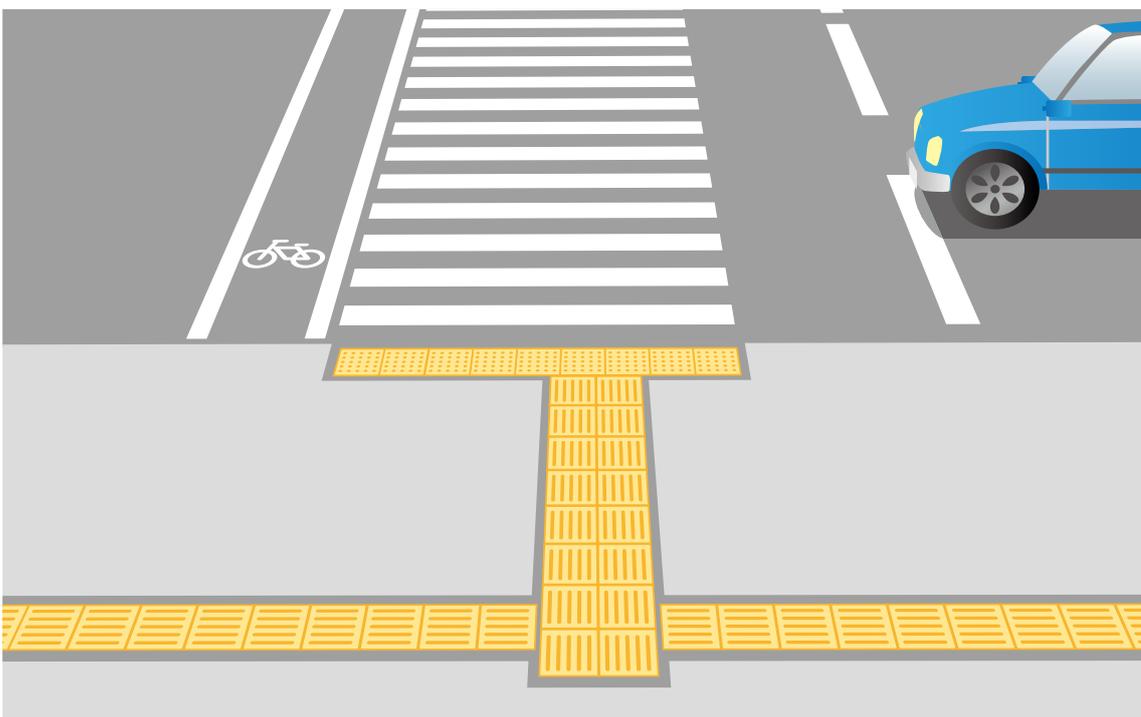
ある日のこと、通勤中に点字ブロックを使わずに歩いていると、女性が小走りにやってきて、

「あなたの歩く所はこっちよ。」

と言いながら、点字ブロックの方へ引っ張っていきました。

私は、あわてて

「点字ブロックを使わなくても大丈夫なんですよ。」
と言ったのですが、その人は、



「ここがあなたたちの歩く道でしょう？」

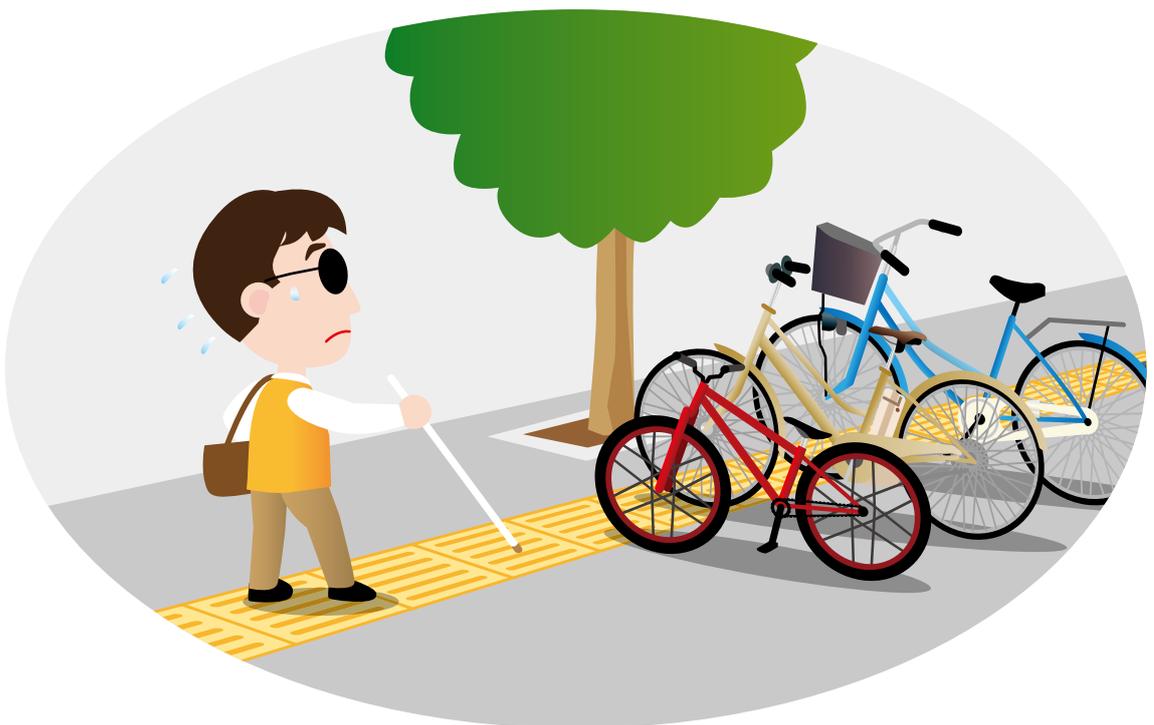
と言って去ってしまいました。

きっと、点字ブロックが視覚障害者にとって必要なものであり、点字ブロックがあれば、一人で歩く助けになることはご存知だったのでしよう。

だから、点字ブロックを外れた私を見て、危ない心配になったのでしよう。

でも、練習すれば、点字ブロックがなくても歩くことができます人もいることを知らなかったようです。

確かに、点字ブロックは、視覚障害者、特に、私のように白杖を使って歩く者にとっては、あれば助かりますし、安心して歩くこともできます。



でも、私は、点字ブロックがない所でも白杖を使って歩けますし、点字ブロックを使わないほうが近道だったり、同じ方向に歩く人の流れに乗ったほうがスムーズに歩くことができるときもあります。

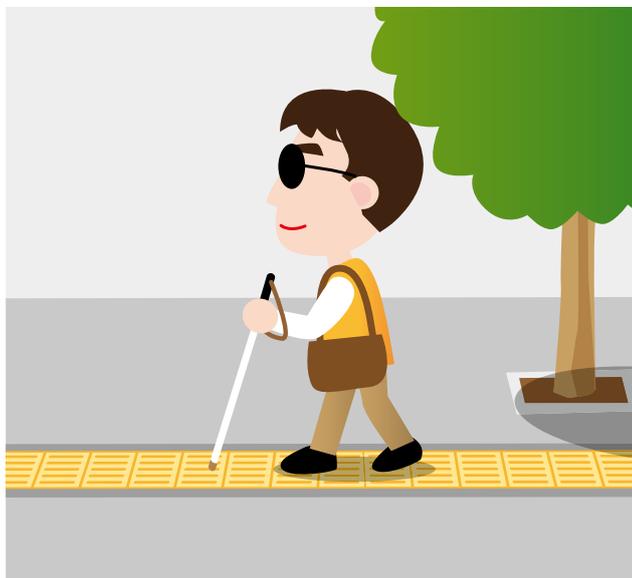
また、点字ブロックの上に自転車などが置いてあり、かえって歩きづらいこともあります。

そんなときは、あえて点字ブロックを使わないほうが便利です。

視覚障害者といっても、点字ブロックの使い方は様々です。いつも使う人、その日の気分によって使う人、慣れた場所では使わない人…。

視覚に障害があるということでは同じでも、見え方・考え方・得意なこと・不得意なことなど、いろいろな人がいることを知ってほしいと思います。

そのためには、多くの視覚障害者がどんどん街に出ていくことが大切です。



私も、点字ブロックに誘導して下さった方の親切を無駄にしないためにも、一人歩きを続け、沢山の人たちとかかわっていききたいと思っています。

○ まちで視覚障害のある人に出会ったとき、あなたはどのように接したいですか。

永吉和之さん略歴

平成2年
平成7年
平成11年
平成15年
平成18年
平成25年
平成20年
平成22年
昭和62年
平成3年
平成4年

四国学院大学文学部社会学科入学▼平成6年3月卒業

柳河盲学校(現柳河特別支援学校)講師

柳河盲学校教諭

福岡高等盲学校(現福岡高等視覚特別支援学校)教諭

福岡盲学校(現福岡視覚特別支援学校)教諭

久留米大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻

福岡高等視覚特別支援学校教諭

全国身体障害者スポーツ大会1500m、二段跳び優勝(いずれも当時日本記録)
四国インカレ1500m出場(伴走付きでは全国初)▼平成5年まで連続出場
ジャパンパラリンピック1500m優勝



永吉さんの授業の様子



様々な障害の特性

目に障害のある人

● 見えない人、見えにくい人、色がわかりにくい人がいます。

● 慣れていないところでは、一人で動くことは難しいです。

● 音、風、匂い、触れた触感を上手に使う、まわりの様子や情報を知ります。

わたしは、音楽を聴いたり、点字の本を読んだりすることが楽しみなんだよ。



耳に障害のある人

● 全く聞こえない人、大きい音がやると聞こえる人、補聴器を使用すれば聞こえる人がいます。

● 主に目で見ても、まわりの様子や情報を知ります。

● 相手が手話や指文字ができなくても、口話、筆談、身振りなどでコミュニケーションをとることができます。

わたしの場合、口を大きく開けて、ゆっくり話してくれると何を言っているかわかるんだ。



手や足、体に障害のある人

● 手や足や体が動かさにくい人、手や足や体が動かせなかったり、ない人がいます。

● 感覚が鈍くなり、周囲の温度に応じた体温調節が難しい人がいます。

● 杖や義足・義手、車いすなどを使っている人がいます。

最近、車いすです
入れるお店やト
イレが増えたか
ら、外出しやす
なりました。



知的障害のある人

● 人によって違いますが、言葉の意味やルールを理解することや、身の回りのことなどを身につけるのに時間がかかったり、戸惑ったりすることがあります。

● くり返し取り組むことで、少しずつできるようになります。

練習して、一人で
電車に乗って出
かけることがで
きるようになった
んだ。



精神障害のある人

● 心が不安定になったり、疲れやすくなったりして、心が傷つきやすいことがあります。

● 対人関係やコミュニケーションが苦手な方が多いです。

● 適切な治療や正しく薬を飲むことで、症状をコントロールすることができず。

話をするときには、
急がせずにゆっくり聞いてくれると嬉しいな。



内部障害のある人

● 体の中(心臓や腎臓など)のはたらきがうまくいかない人がいます。

● 外見からは分かりにくいいため、障害があることを分かってもらえず、困ることがあります。

● 心臓ペースメーカーを使っている人は、携帯電話などの電磁波で誤作動する場合があります。

電車やバスの優先席の近くでは、
携帯電話の電源を切ってくれると嬉しいな。



発達障害のある人

● 脳機能の発達が関係して、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手な人がいます。

● 外見からは分かりにくいいため、誤解され、困ることがあります。

● 発達障害と一言で言っても、障害の種類や年齢などによって、一人ひとり現れ方は違います。

私の場合は、言葉だけでなく、写真や絵を添えて説明してくれるとわかりやすいんだ。



「障害」と一言で言っても様々な障害があります。

同じ障害のある人でも、環境によって、できることや困ってしまうことが一人ひとり違います。

また、「見た目ではわかりにくい障害」もあります。どのような障害にも言えることですが、特に、見た目ではわかりにくい障害については、周りの人が障害について理解することが大切です。

ここに挙げた他にも、いろいろな障害のある人がいますが、みんなと同じ地域で同じように生活をしていきます。

あなたのまわりで、不便を感じたり、困ったりしている人はいませんか？そんな時、あなたのちょっとしたお手伝いが役に立ちます。